

## 折に触れ 四字熟語

### NO. 256 『遷喬之望』 せんきょうのぼう

< 意味 > 春になって、鳥が深い谷間から高い木へ移り住みたいと願う気持ち。転じて、立身出世を望むことのとえ。「せんきょうののぞみ」とも読む。

< 出典 > 『詩経』小雅・伐木。「伐木丁丁たり鳥鳴くこと嚶嚶たり幽谷より出でて喬木に遷る」

語 釈 : 「遷」は移動すること。「喬」は喬木。高い木。「遷喬」は官位の昇進するたとえ。

一 言 : 意味の出だしの「春になって」を読んで季節に合った熟語かと思いましたが、立身出世とは思っても付かない生々しい意味に驚きました。この春も沢山の新社会人が誕生したことと思いますが、それぞれが青雲の志をもって立身出世を夢見て頑張っていることでしょう。

参照文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」